

薰籠大一口口徑二尺二寸、料、籠竹五十株中一口口徑一尺八寸、料、籠竹卅株、漉紙簣十枚、長各二尺四寸、料、籠竹各廿株、茶籠廿枚、方二寸、料、籠竹各六株、

〔延喜式三十〕凡雜機用度料籠竹河竹各百株、每年山城國進、又籠六百株大和國進、

〔延喜式四十〕雜給料○中籠竹卅株作画口及篩柄料

簾篠竹

〔古今要覽稿草木〕簾篠竹

簾篠竹一名澀竹、一名澀勒竹、是今松平越中守大塚の下邸にあり、その高さ大抵五六尺にして、枝幹全く矢竹の如し、葉もまた矢竹に似て、五葉或は四葉を以て一朶とし、その上葉はすべて二葉相對して、每葉白色の間道あり、又一株の中といへども、間道なくしてその色矢竹と一様なるも交はれり、此種は往時清人の携來し物なるよし、今その全形を詳にするに、これ即矢竹の一種、その葉間道あるもの也、故に簾おちざる事また矢竹の如し。

通絲竹

〔古今要覽稿草木〕通絲竹

通絲竹は枝幹並に矢竹に似て、節の平らかなること、亦矢竹の如し、その葉皆仰出して上に向ひ、下垂する事なきは此竹の性也、その葉の狀矢竹よりも極めて細小にして、長さ一尺許、廣さ三四分を過ぎず、每莖おほよそ五葉を以て一朶とし、その五葉のうちにて、上の二葉は對生にして、下の三葉は互生なり、その幹新年のものは簾ありといへ共年を経れば皆落る事矢竹の如し、此種その根窠盤結して、叢生數十百幹に莖るもの、今松平越中守大塚の下邸にあり、一種仰葉竹あり、その竹前條と一様にして、每莖上八九葉或は六七葉つくるを異なりとす、此種今巢鴨の種樹家にあり、

〔古今要覽稿草木〕村松竹

村松竹は越後國村松に產する竹にして、其幹矢竹と一様なりといへ共、每節矢竹よりも密にし